

「アメリカ中間選挙投票から1週間、まだ結果判明せず。
郵便投票に不正があるならなぜ投票方法を変えないのか？
ここにアメリカという国の限界がある」

令和4年11月15日

●チーム西田からの質問

アメリカの中間選挙が終わりましたが、マスコミの予想に反して上院では民主党が50議席と過半数を獲り、そして下院ではまだ結果が出ていませんが、民主党が思いの外勝利し、共和党が伸び悩んだ敗因の原因は何なのでしょうか？

●西田昌司の答え

共和党が思ったよりも伸びない原因について、真偽のほどはよくわかりませんが、11月8日に実施された選挙の結果が1週間経っても判明しないのは非常に怪しい感じがしますし、(即日開票が当たり前である)日本では考えられません。郵便投票が不正の温床と言われてますし、2年前の(トランプ大統領が負けた)大統領選の時も郵便投票が怪しまれました。

世論調査と投票結果に乖離があるがために不正が疑われていますが、世論調査自体が実態を反映していない可能性もあります。アメリカの三大ネットワークは反トランプですし、あえて共和党が有利との情報を流して民主党の得票数を上げる作戦があるのかもしれませんが。

郵便投票なので開票に時間がかかると言われていますし、トランプ大統領は郵便投票のせいで負けたと公言していますが、であれば何故郵便投票のような制度を続けるのでしょうか。本来であれば投票制度そのものの議論をすべきであるにもかかわらず、そこに対しては全くメスが入れられない様子がない

アメリカという国に、非常に不思議な印象を持ってしまいます。

アメリカという国は、大統領さえも国民が選ぶという民主主義の鏡のように思われてきました。しかし、2年前の大統領選挙や今回の中間選挙を見ますと、(民主主義の根幹である)選挙すら不正なしには行えないという、実は民主主義からは最もほど遠い国であることが何となく世間に知れ渡ってきました。

ユダヤ人であるモルデカイ・モーゼさんが書いた『あるユダヤ人の懺悔「日本人に謝りたい」』という本に、(ウィルソン大統領の時代から)ある特定の勢力が政権を牛耳っているということが書かれていますが、そのような視点に立てば、2年前の大統領選挙や今回の中間選挙の不正に得心するのみならず、アメリカがこれまでに関与してきた(大東亜戦争を含む)戦争の意図が透けて見えます。アメリカはかなりおかしい国なのです。

日本は、GHQの占領政策によって様々な価値観を押しつけられましたが、それでも(アメリカに比べれば)まだまともであるとも言えます。日本人が占領政策の事実を知って歴史観を取り戻せば、日本はもう一度立ち直ることができると思います。しかし、アメリカの場合、病膏肓に入るといった絶望的な印象を拭えません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>